

# DISCLOSURE

## 熊本県医師信用組合の業務現況 【ミニディスクロージャー】

令和2年9月末現在

### ご挨拶

組合員の皆さまには、平素からお引き立てを賜り厚くお礼申し上げます。  
このたび、令和2年度上半期の決算状況を取り纏めましたので、ご高覧願います。  
今後とも、なお一層のご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

熊本県医師信用組合  
理事長 福田 稠

### 経理・経営内容

#### 貸借対照表

(単位：千円)

科 目	令和元年9月末	令和2年9月末
資産の部	金額	金額
現金	9,784	11,514
預 け 金	10,377,066	9,954,803
有 価 証 券	7,083,122	7,443,989
国 債	1,186,773	1,354,861
地 方 債	2,181,508	2,141,752
短 期 社 債	-	-
社 債	3,559,986	3,790,320
株 式	900	900
そ の 他 の 証 券	153,954	156,155
貸 出 金	3,191,950	3,795,904
割 引 手 形	-	-
手 形 貸 付	27,492	11,487
証 書 貸 付	3,164,458	3,784,417
当 座 貸 越	-	-
そ の 他 資 産	75,488	72,798
未 決 済 為 替 貸	-	-
全 信 組 連 出 資 金	44,400	44,400
そ の 他 出 資 金	-	-
前 払 費 用	-	-
未 収 取 益	22,150	21,522
金 融 派 生 商 品	-	-
仮 払 金	121	124
そ の 他 の 資 産	8,816	6,752
有 形 固 定 資 産	1,724	2,737
建 物	-	-
土 地	-	-
建 設 仮 勘 定	-	-
そ の 他 有 形 固 定 資 産	1,724	2,737
無 形 固 定 資 産	626	87
ソ フ ト ウ ェ ア	541	2
の れ	-	-
そ の 他 無 形 固 定 資 産	84	84
繰 延 税 金 資 産	-	-
再 評 価 に 係 る 繰 延 税 金 資 産	-	-
債 務 保 証 見 返	150	-
貸 倒 引 当 金	△ 10,342	△ 16,972
(うち個別貸倒引当金)	-	(△ 4,014)
資 産 の 部 合 計	20,729,571	21,265,763

科 目	令和元年9月末	令和2年9月末
負債の部	金額	金額
預 金 積 金	18,876,105	19,346,885
当 座 預 金	-	-
普 通 預 金	8,711,665	9,743,623
貯 蓄 預 金	-	-
通 知 預 金	-	-
定 期 預 金	9,661,262	9,207,340
定 期 積 金	387,027	236,712
そ の 他 の 預 金	116,150	159,209
借 入 金	200,000	400,000
借 入 金	200,000	400,000
そ の 他 負 債	11,262	8,998
未 決 済 為 替 借	-	-
未 払 費 用	6,249	6,293
給 付 補 て ん 備 金	95	45
未 払 法 人 税 等	3,215	1,081
前 受 取 益	33	14
払 戻 未 済 金	-	-
そ の 他 の 負 債	1,668	1,563
賞 与 引 当 金	3,161	3,288
役 員 賞 与 引 当 金	-	-
退 職 給 付 引 当 金	41,208	39,761
役 員 退 職 慰 労 引 当 金	5,434	5,825
繰 延 税 金 負 債	108,394	70,448
債 務 保 証	150	-
負 債 の 部 合 計	19,245,718	19,875,206
純 資 産	1,483,852	1,390,556
出 資 金	25,926	25,034
普 通 出 資 金	25,926	25,034
利 益 剰 余 金	1,125,375	1,133,749
利 益 準 備 金	42,342	42,342
そ の 他 利 益 剰 余 金	1,083,033	1,091,407
特 別 積 立 金	1,062,293	1,074,293
(債券等償却積立金)	-	-
(退職給与積立金)	-	-
当 期 未 処 分 剰 余 金	20,740	17,114
組 合 員 勘 定 合 計	1,151,301	1,158,783
そ の 他 の 有 価 証 券 評 価 差 額 金	332,550	231,773
評 価 ・ 換 算 差 額 等 合 計	332,550	231,773
負 債 及 び 純 資 産 合 計	20,729,571	21,265,763

(注) 記載金額は、千円未満を切り捨てて表示しております。

## 損益計算書

(単位：千円)

科 目	令和元年9月末	令和2年9月末
<b>経常収益</b>	<b>69,234</b>	<b>64,407</b>
資金運用収益	62,154	63,753
貸出金利息	20,300	22,482
預け金利息	4,964	5,074
有価証券利息配当金	35,647	35,003
その他の受入利息	1,242	1,193
役務取引等収益	411	469
受入為替手数料	410	467
その他の役務収益	0	1
その他業務収益	6,668	150
国債等債券売却益	6,665	-
国債等債券償還益	-	-
金融派生商品収益	-	-
その他の業務収益	1	149
臨事収益	-	35
貸倒引当金戻入益	-	35
<b>経常費用</b>	<b>57,563</b>	<b>58,113</b>
資金調達費用	3,780	3,526
預金利息	3,780	3,526
給付補てん備金繰入額	-	-
役務取引等費用	37	54
支払為替手数料	14	7
その他役務費用	23	47
その他業務費用	1	224
国債等債券償還損	1	224
その他業務費用	-	-
一般貸倒引当金繰入額	81	1,511
経費	52,782	51,856
人件費	25,089	24,948
物件費	27,601	26,817
税金	91	99
その他経常費用	880	931
貸出金償却	-	-
貸倒引当金繰入額	-	-
その他の経常費用	880	931
<b>経常利益</b>	<b>11,671</b>	<b>6,294</b>
<b>特別利益</b>	<b>-</b>	<b>-</b>
その他の特別利益	-	-
<b>特別損失</b>	<b>-</b>	<b>-</b>
動産不動産処分損	-	-
<b>税引前当期純利益</b>	<b>11,671</b>	<b>6,294</b>
法人税、住民税及び事業税	3,610	1,615
法人税等調整額	△348	△1,142
<b>当期純利益</b>	<b>8,409</b>	<b>5,821</b>
前期繰越金	12,331	11,293
<b>当期末処分剰余金</b>	<b>20,740</b>	<b>17,114</b>

(注) 1. 記載金額は、千円未満を切り捨てて表示しております。  
 なお、以下の注記については、表示単位未満を切り捨てて表示しております。

## 預金種目別平均残高

(単位：千円：%)

種 目	令和元年度		令和2年度	
	金額	構成比	金額	構成比
流動性預金	8,613,891	47.63	9,461,374	49.82
定期性預金	9,470,298	52.37	9,528,833	50.18
<b>合 計</b>	<b>18,084,189</b>	<b>100.0</b>	<b>18,990,208</b>	<b>100.0</b>

(注) 記載金額は千円未満を切り捨てて表示しております。

## 定期預金種類別残高

(単位：千円)

区 分	令和元年度末	令和2年度末
固定金利定期預金	9,661,262	9,207,340
変動金利定期預金	-	-
その他の定期預金	-	-
<b>合 計</b>	<b>9,661,262</b>	<b>9,207,340</b>

(注) 記載金額は千円未満を切り捨てて表示しております。

## 貸出金種類別平均残高

(単位：千円：%)

科 目	令和元年度		令和2年度	
	金額	構成比	金額	構成比
割引手形	-	-	-	-
手形貸付	44,063	1.38	22,330	0.63
証書貸付	3,138,335	98.62	3,530,665	99.37
当座貸越	-	-	-	-
<b>合 計</b>	<b>3,182,399</b>	<b>100.0</b>	<b>3,552,995</b>	<b>100.0</b>

(注) 記載金額は千円未満を切り捨てて表示しております。

## 貸出金使途別内訳

(単位：千円：%)

区 分	令和元年度		令和2年度	
	金額	構成比	金額	構成比
運転資金	1,405,798	44.04	2,063,144	54.35
設備資金	1,786,151	55.96	1,732,759	45.65
<b>合 計</b>	<b>3,191,950</b>	<b>100.0</b>	<b>3,795,904</b>	<b>100.0</b>

(注) 記載金額は千円未満を切り捨てて表示しております。

## 有価証券種類別平均残高

(単位：千円：%)

区 分	令和元年度		令和2年度	
	金額	構成比	金額	構成比
国 債	1,193,909	18.03	1,272,975	17.80
地 方 債	2,062,859	31.15	2,004,306	28.02
社 債	3,240,330	48.93	3,779,094	52.84
株 式	900	0.01	900	0.01
その他の証券	124,254	1.88	94,763	1.33
<b>合 計</b>	<b>6,622,253</b>	<b>100.0</b>	<b>7,152,040</b>	<b>100.0</b>

(注) 1. 当組合は、商品有価証券を保有しておりません。  
 2. 記載金額は千円未満を切り捨てて表示しております。

## 自己資本の構成

(単位：千円)

項 目	令和元年9月末	令和2年9月末
コア資本に係る基礎項目(1)		
普通出資又は非累積的永久優先出資に係る会員勘定の額	1,142,892	1,158,783
うち、出資金及び資本剰余金の額	25,926	25,034
うち、利益剰余金の額	1,116,966	1,133,749
うち、外部流出予定額(△)	—	—
うち、上記以外に該当するものの額	—	—
コア資本に係る基礎項目の額に算入される引当金の合計額	10,342	12,058
うち、一般貸倒引当金コア資本算入額	10,342	12,058
うち、適格引当金コア資本算入額	—	—
適格旧資本調達手段の額のうち、コア資本に係る基礎項目の額に含まれる額	—	—
公的機関による資本の増強に関する措置を通じて発行された資本調達手段の額のうち、コア資本に係る基礎項目の額に含まれる額	—	—
土地再評価額と再評価直前の帳簿価額の差額の45パーセントに相当する額のうち、コア資本に係る基礎項目の額に含まれる額	—	—
コア資本に係る基礎項目の額(イ)	1,153,234	1,170,841
コア資本に係る調整項目(2)		
無形固定資産(モーゲージ・サービシング・ライツに係るものを除く。)の額の合計額	103	63
うち、のれんに係るものの額	—	—
うち、のれん及びモーゲージ・サービシング・ライツに係るもの以外の額	103	63
繰延税金資産(一時差異に係るものを除く。)の額	—	—
適格引当金不足額	—	—
証券化取引に伴い増加した自己資本に相当する額	—	—
負債の時価評価により生じた時価評価差額であって自己資本に算入される額	—	—
前払年金費用の額	—	—
自己保有普通出資等(純資産の部に計上されるものを除く。)の額	—	—
意図的に保有している他の金融機関等の対象資本調達手段の額	—	—
少数出資金融機関等の対象普通出資等の額	—	—
信用協同組合連合会の対象普通出資等の額	—	—
特定項目に係る10パーセント基準超過額	—	—
うち、その他金融機関等の対象普通出資等に該当するものに関連するものの額	—	—
うち、モーゲージ・サービシング・ライツに係る無形固定資産に関連するものの額	—	—
うち、繰延税金資産(一時差異に係るものに限る。)に関連するものの額	—	—
特定項目に係る15パーセント基準超過額	—	—
うち、その他金融機関等の対象普通出資等に該当するものに関連するものの額	—	—
うち、モーゲージ・サービシング・ライツに係る無形固定資産に関連するものの額	—	—
うち、繰延税金資産(一時差異に係るものに限る。)に関連するものの額	—	—
コア資本に係る調整項目の額(ロ)	103	63
自己資本		
自己資本の額((イ) - (ロ)) (ハ)	1,153,130	1,170,778
リスク・アセット等(3)		
信用リスク・アセットの額の合計額	6,200,447	7,260,848
うち、経過措置によりリスク・アセットの額に算入される額の合計額	—	—
うち、無形固定資産(のれん及びモーゲージ・サービシング・ライツに係るものを除く。)	—	—
うち、繰延税金資産に係るものの額	—	—
うち、前払年金費用に係るものの額	—	—
うち、他の金融機関等向けエクスポージャー	—	—
うち、上記以外に該当するものの額	—	—
オペレーショナル・リスク相当額の合計額を8パーセントで除して得た額	211,309	215,716
信用リスク・アセット調整額	—	—
オペレーショナル・リスク相当額調整額	—	—
リスク・アセット等の額の合計額(ニ)	6,411,757	7,476,564
自己資本比率		
自己資本比率((ハ) / (ニ))	17.98%	15.65%

(注)自己資本比率の算出方法を定めた「協同組合による金融事業に関する法律第六条第一項において準用する銀行法第14条の2の規定に基づき、信用協同組合及び信用協同組合連合会がその保有する資産等に照らし自己資本の充実の状況が適当であるかどうかを判断するための基準(平成18年金融庁告示第22号)」に係る算式に基づき算出しております。なお、当組合は国内基準を採用しております。

自己資本の充実の状況（リスク・アセット、所要自己資本）

（単位：千円）

	令和元年9月末		令和2年9月末	
	リスク・アセット	所要自己資本額	リスク・アセット	所要自己資本額
イ. 信用リスク・アセット、所要自己資本の額合計	6,200,447	248,017	7,260,848	290,433
①標準的手法が適用されるポートフォリオごとのエクスポージャー ※2	6,037,416	241,496	7,096,036	283,840
(i) ソブリン向け	137,301	5,492	105,320	4,212
(ii) 金融機関向け	2,116,271	84,650	2,011,259	80,450
(iii) 法人等向け	3,562,705	142,508	4,702,129	188,085
(iv) 中小企業等・個人向け	221,139	8,845	277,328	11,093
(v) 抵当権付住宅ローン	-	-	-	-
(vi) 不動産取得等事業向け	-	-	-	-
(vii) 三月以上延滞等	-	-	-	-
②証券化エクスポージャー	-	-	-	-
ロ. オペレーショナル・リスク	211,309	8,452	215,716	8,628
ハ. 単体総所要自己資本額（イ+ロ）	6,411,757	256,470	7,476,564	299,062

- (注) 1. 所要自己資本の額＝リスク・アセット額×4%  
 2. 「エクスポージャー」とは、資産（派生商品取引によるものを除く）並びにオフ・バランス取引及び派生商品取引の与信相当額です。  
 3. 「ソブリン」とは、中央政府、中央銀行、地方公共団体、わが国の政府関係機関、土地開発公社、地方住宅供給公社、地方道路公社、外国の中央政府以外の公共部門（当該国内においてソブリン扱いになっているもの）、国際開発銀行、国際決済銀行、国際通貨基金、欧州中央銀行、欧州共同体、信用保証協会及び漁業信用基金協会のことです。  
 4. 「三月以上延滞等」とは、元本又は利息の支払が約定支払日の翌日から3ヶ月以上延滞している債務者に係るエクスポージャー及び「ソブリン向け」、「金融機関向け」、「法人等向け」においてリスク・ウエイトが150%になったエクスポージャーのことです。  
 5. オペレーショナル・リスクは、当組合は基礎的手法を採用しています。
- $$\frac{\text{〈オペレーショナル・リスク（基礎的手法）の算定方法〉}}{\text{粗利益（直近3年間のうち正の値の合計額）} \times 15\%} \div 8\% \\ \text{直近3年間のうち粗利益が正の値であった年数}$$
6. 単体総所要自己資本額＝単体自己資本比率の分母の額×4%  
 7. 記載金額は千円未満を切り捨てて表示しております。

最低所要自己資本額および配賦可能自己資本額

（単位：千円）

最低所要自己資本額（当期末現在）

リスク・アセット計 (A)	最低所要自己資本比率 (B)	最低所要自己資本額 (A×B)
7,260,848	4%確保の場合	290,433
	8%確保の場合	580,867

(注) 1. 記載金額は千円未満を切り捨てて表示しております。

配賦可能自己資本額（当期末現在）

自己資本額 (A)	最低所要自己資本比率 (B)	最低所要自己資本額 (C)	配賦可能自己資本額 (A-C) (税引後)
1,170,778	4%確保の場合	290,433	880,345
	8%確保の場合	580,867	589,911

(注) 1. 記載金額は千円未満を切り捨てて表示しております。

信用リスクに関する事項（証券化エクスポージャーを除く）

（単位：千円）

ロ. 一般貸倒引当金、個別貸倒引当金の期末残高および期中の増減額

		期首残高	当期増加額	当期減少額		期末残高
				目的使用	その他	
一般貸倒引当金	令和元年9月末	10,260	10,342	-	10,260	10,342
	令和2年9月末	10,546	12,058	-	10,546	12,058
個別貸倒引当金	令和元年9月末	-	-	-	-	-
	令和2年9月末	4,050	4,014	-	4,050	4,014
合計	令和元年9月末	10,260	10,342	-	10,260	10,342
	令和2年9月末	14,596	16,072	-	14,596	16,072

(注) 記載金額は千円未満を切り捨てて表示しております。

二. リスク・ウエイトの区分とエクスポージャーの額等

告示で定めるリスク・ウエイト区分 (%)	エクスポージャーの額			
	令和元年9月末		令和2年9月末	
	格付有り	格付無し	格付有り	格付無し
0%	1,941,748	2,191,292	1,987,247	2,506,430
10%	1,170,938	-	1,053,206	-
20%	707,447	10,377,066	300,642	9,958,003
35%	-	-	-	-
50%	518,770	1,363	801,515	916
75%	-	297,519	-	280,339
100%	561,809	2,974,234	1,158,724	3,231,019
合計	4,900,714	15,841,477	5,301,337	15,976,708

- (注) 1. 記載金額は千円未満を切り捨てて表示しております。  
 2. 格付は、適格格付機関が付与しているものに限り、ります。  
 3. エクスポージャーは、信用リスク削除手法適用後のリスク・ウエイトに区分しています。

## 銀行勘定における金利リスクに関して当組合が内部管理上使用した金利ショックに対する経済価値の増減額

当組合は、SMBC日興証券殿から提供を受けているNBAシステムを使用し、総金利リスク量の測定を行っております。

これは、過去5年間の観測データに基づき、保有期間1年の間に、一定の確率で発生し得る最大の損失額を見積もるものです。

(単位：百万円)

金利上昇時の金利リスク量	経済価値の増減額	
	令和元年9月末	△ 213
	令和2年9月末	△ 202

## 金融再生法開示債権および同債権に対する保全

(単位：千円：%)

区分	債権額 (A)	担保・保証等 (B)	貸倒引当金 (C)	保全額 (D) = (B) + (C)	保全率 (D) / (A)	貸倒引当金引当率 (C) / (A - B)
破産更生債権及びこれらに準ずる債権	令和元年9月末	—	—	—	—	—
	令和2年9月末	—	—	—	—	—
危険債権	令和元年9月末	—	—	—	—	—
	令和2年9月末	4,014	—	4,014	—	100
要管理債権	令和元年9月末	33,969	—	110	—	0.32
	令和2年9月末	30,686	—	97	—	0.32
不良債権計	令和元年9月末	33,969	—	110	—	0.32
	令和2年9月末	34,701	—	4,112	—	11.85
正常債権	令和元年9月末	3,158,196	—	—	—	—
	令和2年9月末	3,761,209	—	—	—	—
合計	令和元年9月末	3,192,165	—	—	—	—
	令和2年9月末	3,795,910	—	—	—	—

(注) 1. 「破産更生債権及びこれらに準ずる債権」とは、破産、会社更生、再生手続等の事由により経営破綻に陥っている債務者に対する債権及びこれらに準ずる債権です。  
2. 「危険債権」とは、債務者が経営破綻の状態には至っていないが、財政状態及び経営成績が悪化し、契約に従った債権の元本の回収及び利息の受取りができない可能性の高い債権です。  
3. 「要管理債権」とは、「3か月以上延滞債権」及び「貸出条件緩和債権」に該当する貸出債権です。

4. 「正常債権」とは、債務者の財政状態及び経営成績に問題がない債権で、「破産更生債権及びこれらに準ずる債権」、「危険債権」、「要管理債権」以外の債権です。  
5. 「担保・保証等 (B)」は、自己査定に基づいて計算した担保の処分可能見込額及び保証による回収が可能と認められる額の合計額です。  
6. 「貸倒引当金 (C)」は、「正常債権」に対する一般貸倒引当金を控除した貸倒引当金です。  
7. 記載金額は千円未満を切り捨てて表示しております。

## 有価証券、金銭の信託等の取得価格または契約価格、時価および評価損益

(単位：千円)

項目	取得価格または契約価格	時価	評価損益	
有価証券	元年9月末	6,629,556	7,083,122	453,566
	2年9月末	7,129,484	7,443,989	314,505
金銭の信託	元年9月末	—	—	—
	2年9月末	—	—	—
デリバティブ等商品	元年9月末	—	—	—
	2年9月末	—	—	—

(注) 1. 記載金額は千円未満を切り捨てて表示しております。  
2. 「時価」は、「金融商品に係る会計基準の設定に関する意見書」(企業会計審議会：平成11年1月23日)に定める時価に基づいて表示しております。なお、時価のないものについては、帳簿価格で表示しております。  
3. デリバティブ等商品とは、預金等と協同組合による金融事業に関する法律施行規則第41条1項第5号に掲げる取引(金融先物取引、金融等デリバティブ取引、先物外国為替取引、有価証券デリバティブ取引等)を組合せた商品です。

## 地域密着型金融の円滑化について

当組合における「地域」とは、熊本県の地域医療を支える組合員の皆さまです。組合員の皆さまに、より良い金融サービスを提供すべく、以下の事項に注力しております。

- ライフサイクルに応じた取引先企業の支援の一層の強化  
新規ご開業資金や事業承継ローン「譲り業」のご融資
- 事業価値を見極める融資手法をはじめ中小企業に適した資金供給手法の徹底  
経営以外の第三者の連帯保証を原則不要とする熊本県信用保証協会や全国しんくみ保証の活用
- 地域の情報集積を活用した持続可能な地域経済への貢献  
地域医療に関する情報の収集と組合員の皆さまのニーズの収集等による、適切な金融商品のご提供

## 地域貢献について

「組合員の相互扶助」を基本理念とする当組合は、上記「地域密着型金融の円滑化」による「地域医療への貢献」が最重要課題と捉えております。また、文化事業等への貢献として、熊本県医師会主催の総合芸術祭、ゴルフ大会等への協賛をおこなっております。

事務所の名称・所在地

Kumamoto  
Doctor's  
Credit  
Cooperative



熊本県医師信用組合

〒860-0806

熊本市中央区花畑町1番13号

熊本県医師会館5階

TEL 096-354-3000

FAX 096-324-4609

E-mail:kumamoto-kdcc@angel.ocn.ne.jp